

冬号

都民連だより

平成 24年1月
(第47巻3号)

思いやり

あなたと私の地域の“わ”

—東京都民生委員・児童委員・主任児童委員—



特集

「はじめて ミンジーです」 ～民生委員・児童委員のPR活動の推進に向けて

- 共に支える「不登校児童・生徒への支援」 ●都民連通信
- きらり☆この人 ●東社協コーナー ●活動記録あれこれ ●カンタン！おまかせレシピ



東京散歩

王子狐の行列（北区） 行く年、来る年の祈りを込めて

提灯の灯りに浮き上がる幻想的な狐の行列。除夜の鐘を合図に、袴・着物姿にお面や化粧で狐に扮した人々がお囃子とともに練り歩きます。この行事は、お稲荷さまの使者とされる狐が、大晦日の晩に装束を整え、関東総司の王子稲荷神社に参詣したという言い伝えをもとにしています。歌川広重の名所江戸百景にも描かれたこの王子の伝統と文化を、子どもたちに伝え、町おこしにつなげようと地域住民の手で再現され、今年で19回目を迎えました。

新春のごあいさつ



東京都民生児童委員連合会
会長 ふくだ ほうえん
豊田衍

謹んで新春のごあいさつを申し上げます。

昨年は東日本大震災をはじめ、国内外で災害が多発する多事多難の年となりました。こうした中で、勇気づけられることもありました。

それはこの震災を通じて、地域や人々の絆が再評価されたことであり、国民の優しさや共助の精神、忍耐力や秩序立った行動が海外でも称賛を受け、日本人の良さを再認識できたことです。これからも私たちの誇れる財産として大切にし、後世に引き継いでいかなければなりません。

私たちの周りには援助を要する多くの人々が存在しています。地域のアンテナ役、見守り役として、「想定外」の事態も「想定」できるよう、きめ細かな活動を目指していきたいものです。

本年も世界にも類を見ない民生委員・児童委員制度の担い手として、誇りを持って地域福祉の向上に総力を結集します。

ケースに当たるとき、委員は対象者や関係機関とのきめ細やかなやりとりを続ける中で、一つずつ信頼関係を紡いでいきます。その際、委員のことが少しでも知られていれば、より迅速で効果的な活動ができることでしょう。だからこそ、組織として、日頃から住民や関係機関に委員活動をPRしていくことが求められています。

宝船



本年も世界にも類を見ない民生委員・児童委員制度の担い手として、誇りを持って地域福祉の向上に総力を結集します。

特集

集

「はじめまして ミハジード！」

～民生委員・児童委員のPR活動の推進に向けて～

● PRはなぜ必要？

近年、民生委員・児童委員の「活動のしにくさ」が課題となっています。住民からの相談が少ない、何でもしてくれるとの誤解がある。関係機関から情報が得られず連携が進まない—その要因の一つには、委員の存在や役割が、十分に伝わっていないことがあります。

児協として、自分たちの活動を、自分たちの言葉で、地域に合った方法で、分かりやすく、正しく、直接伝えていくことは、多大な効果があります。

本会では、PR活動を推進するため、その考え方や実践例をまとめた小冊子を発行し、昨年4月、全委員に配布しました。



また、今年度は各地区でのPR活動にご活用いただくため、ウェットティッシュ・マスクを20万個作成し、民児協に送付しています。さらに、テレビ取材への積極的な協力や、数千名規模の福祉系イベントへの出展にも取り組んできました。

● 愛されるキャラクターに

こうしたPR活動の際、人目に留まりやすいように設定されたのが、キヤツチフレーズとキャラクターです。

あなたと私の地域の「わ」。このキヤツチフレーズは、住民に活動を簡潔に伝え、委員一人ひとりのPR意識の高揚を図るため、民児協に募集して決定しました。

また既に35の区市で、広報紙



ミンジー

等に掲載いただいているのが左上のキャラクターです。群れで生活し、共同で子育てを行うペンギンをモチーフに、「地域における支え合いを目指す」「社会全体で子育てを応援する」活動に取り組む民生委員・児童委員の姿を表しています。

このキャラクターの愛称を考えることを通じて、世代を超える多くの住民に知ってもらうことを目的に、昨年5～10月まで、都民へ愛称を募集してきました。ホームページ上での応募件数は100点程でしたが、委員の手から地域行事や学校で受け取ったチラシに付いたはがきでの応募は2千点以上に上り、厳正なる選考の末、愛称が『ミンジー』と決定しました。

民生委員の、都民の、みんなのミンと、児童委員、主任児童委員、児童のジーを合わせたもので、広く親しんでもらえるよう願いが込められています。

今後は、このミンジーと共に、全都を挙げたPR活動を展開してまいります。

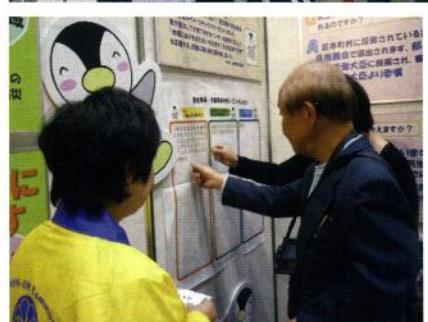
● 民生委員・児童委員の日

その一環として24年度は、これまで各地区がそれぞれ行ってきた『民生委員・児童委員の日 活動強化週間』の取り組みを、全部で統一的に実施します。また初の中央イベントとして、都庁周辺での集会やパレードも計画中です。

既に各地区でも、役所や公共施設、駅頭などの会場確保と準備が進められています。墨田区では、東京スカイツリーの開業イベントでの出展を、清瀬市で



▲ 展示ブースでのPR例。活動紹介パネルやのぼり旗を掲示。揃いのジャンパーで活動を説明。



▲ シールを使った簡単な認知度調査。ご協力いただいた方にはPRグッズ（粗品）を配付。

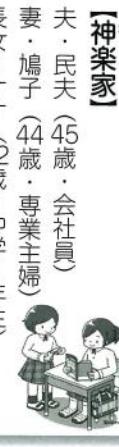
委員一人ひとりがPR意識を持つて普段から活動し、組織としてのPR活動を進めることで、住民・関係機関との相互理解を深め、「活動しやすい」環境を整えていきましょう。

共に支える

～神楽家と地域の絆～

人生は、山あり谷あります。うまくいくこともあります。問題が起り、悩み、立ち直ることもあります。神楽家と地域の人たちの、人生のひと場面を通して、関係機関・団体と民生児童委員が重層的に支える姿を追っていきます。

【第二話】不登校児童・生徒への支援



【神楽家】

夫・民夫（45歳・会社員）

妻・鳩子（44歳・専業主婦）

長女・ナナ（12歳・中学1年生）

ナナは今年、中学校に入学しました。入学当初は新しい環境に少し緊張していましたが、友達も増え、充実した学校生活を送っているようです。夕食時には毎日その日の出来事を話してくれるのですが、鳩子もとてもうれしく思っていました。

ところがある日、「実は3学期に入つてずっとお休みしている子が多い」とナナが話しました。そのクラスメートは、秋頃から遅刻や早退が目立つようになり、このまま学校に来なくなるのではないか、とても心配していると言いました。

※不登校とは、年間30日以上欠席した者の中、心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しない・したくともできない状況にあることをいう。（ただし、病気や経済的理由によるものを除く）

平成22年度に東京都内の公立小中学校を対象に行われた調査では、約8900人の児童・生徒が不登校（※）であると報告されています。

不登校の要因は、学習のつまずきや学校での人間関係のほか、親の精神疾患や家庭環境などさまざまです。専門機関や地域の協力なくしては支援が困難という例も少なくありません。

複雑化、深刻化する問題に、学校・家庭・地域が連携して対応することが求められています。

関係機関・団体

公的機関の取り組み

【東京都教育相談センター】

都立の相談機関として、「都民からの相談対応」「学校等への支援」を行っています。友人関係や学業不振で不登校になった子どもや、ケースへの対応に悩む学校に対して、心理職等のスタッフを派遣し、相談・助言・支援をします。

【適応指導教室】

区市町村教育委員会が設置する、長期欠席の

子どもに対応するための学級です。小中学校や教育センター、そのほかの公共施設に設置されているところが多く、学習援助が中心です。子どもの人数が少なく、教員が一人ひとりのペースに合わせて対応できることが大きな利点です。



民間の機関・団体の取り組み

【フリースクール／フリースペース】

一般に、学校以外の子どもの居場所、遊びの場を指します。友達づくりや体験活動、さまざまなイベントを行いながら、不登校の子どもたちが伸び伸びと過ごせる場を提供しています。小学校、高校の出席日数に含めることができる制度もありますので、お近くのフリースクール等についても、ぜひご確認ください。



【サポート校】

通信制高校に在籍する生徒が確実に高校を卒業できるよう、学習面や生活面の支援をする民間の教育施設です。中学校時代不登校だった生徒や勉強が苦手だった生徒、何らかの理由で高校を中退してしまった生徒を対象としています。

民生委員 児童委員

地区まつりへの
参加・交流

【板橋区】
蓮根舟渡地区

「いらっしゃいます。

どうぞ」と、中学生の元気な声

が聞こえるフリーマーケット。

板橋区蓮根舟渡地区民児協で

は、地区まつりでのフリーマー

ケット出店に際し、不登校のお

子さんを誘い、共に活動してい

ます。

始まりは不登校生徒と長く関わりを持つていた主任児童委員の働き掛けでした。小学校の時から不登校状態にあつたお子さんは、友達とも大人とも交流がない、家から出ることもほとんどありません。何か地域とつながりがい、原動力になっています。

学校と連携した
不登校生徒への支援

【昭島市】



くお揃いのエプロンで、
楽しく接客
しています>

なかなか教室に入れない子どもたちを支援するため、民生児



く勉強しながらも、
楽しいおしゃべりに
笑顔がこぼれます>

る」ことを心掛け、子どもたちの声に耳を傾けます。

「嫌なことを言われた」。こう

話す生徒に「もしかしたら、相

手はこんな思いで話していたの

かもね」。気持ちに寄り添いなが

ら問いかけてます。すると生徒も

「そななのかな」と立ち止まって

考へてくれます。友人との行き

違いから関係が悪化し、学校が

つらい場所になつてている場合に

は、当人同士、あるいは本人と

先生の間に立ち、通訳のように

心をつなぐも民生児童委員の大

切な役割です。

「話ができる、少しすつきりし

た」と表情を和らげる子どもの

様子を見つめながら、何でも話

せる地域のおじさん・おばさん

として関わり続けています。

次回の予告

担任による家庭訪問や友人からの声掛けもあり、ナナのクラスメートは、再び毎日登校してくるようになりました。

その後、ナナは無事に中学校・高校を卒業し、この春から大学に進学。そしてまた、新たな悩み事が…。



都民連通信



第65回東京都民生委員・児童委員大会が、昨年11月、文京ジビックホールにおいて開催されました。都内の約1800名の委員が参加しました。その内容を写真と共に紹介し、別紙にて採択された大会宣言の詳細をお伝え致します。



式典

国歌斉唱、物故者の追悼、八丈支厅沖山会長による民生委員児童委員信条の朗読から始まった式典では、吉川東京都副知事、福田都民連会長の主催者あいさつに引き続き、都知事が贈呈がありました。

都民連会長感謝状授与

被表彰者を代表して、中沢華那子様（世田谷区）から謝辞がありました。



〔ご祝辞〕



東京都議会和田議長、厚生労働



〔熊坂真穂様〕

永年にわたるご活躍に会場から大きな拍手が響きます
(山田芳枝様)

東京都表彰規則による被表彰者33名、特別功労賞受賞者154名、一般功労賞受賞者43名を代表して、山田芳枝様（足立区）、伊藤弘様（江戸川区）、高麗美智子様（三鷹市）に、副知事より表彰状が授与されました。

知事表彰等授与

東京都副知事、福井都民連会長の主催者あいさつに引き続き、都知事が贈呈されました。

次に、民生児童委員活動にご協力いたいている関係機関・団体の職員の被贈呈者35名を代表して、練馬区の坂内敬雄様に都民連会長より感謝状が授与されました。

その後、東京都の民生児童委員・主任児童委員のキャラクターの愛称が、多数の応募の中から「ミニジー」に決定されたことが発表されました。応募いただきました24名を代表して、都内在住の熊坂真穂様に都民連会長より感謝状が授与されました。

東京都表彰規則による被表彰者33名、特別功労賞受賞者154名、一般功労賞受賞者43名を代表して、山田芳枝様（足立区）、伊藤弘様（江戸川区）、高麗美智子様（三鷹市）に、副知事より表彰状が授与されました。

東京都表彰規則による被表彰者33名、特別功労賞受賞者154名、一般功労賞受賞者43名を代表して、山田芳枝様（足立区）、伊藤弘様（江戸川区）、高麗美智子様（三鷹市）に、副知事より表彰状が授与されました。



〔西東京市：坂元会長〕

第二部は、「民生児童委員の皆様への期待」と題して、吉川副知事より講演をいただきました。

記念講演

東京都の福祉行政に長きにわたり携わり、現在も福祉保健局をはじめ、知事本局、東京消防庁、青少年・治安対策本部など、私たちと関わりの深い分野を横断的に担任されている副知事。だからこそ、具体的な内容で、力強く、時にユーモラスな語りに、会場の誰もが引き付けられていきました。



コラス

省社会・援護局矢田地域福祉課長、東京都社会福祉協議会小瀬副会長よりご祝辞をいただきました。

また、関東近県の民児協会長や都議会厚生委員会の方々等のご列席をいただきました。

大会宣言

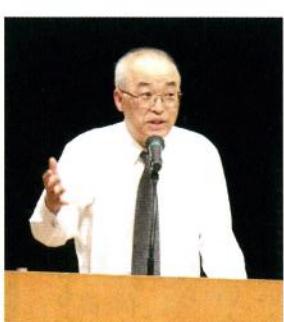
式典の後半は、大会宣言です。

選出された大谷議長（葛飾区）、大森副議長（世田谷区）、大原副議長（東村山市）により進行され、西東京市坂元会長により朗々と読み上げられた宣言（案）は、満場一致で採択されました。

休憩時間の後は、皆様お楽しみの国分寺市合唱隊「ル・リヤン」による合唱です。「人生」をテーマにした温かな歌声が、会場全体を包み込みました。

第一部の結びに、会場全体で民生委員の歌「花咲く郷土」を齊唱します。別紙に、全文および重点項目について説明がされていますので、お目通しください。

第一部の結びに、会場全体で民生委員の歌「花咲く郷土」を齊唱します。別紙に、全文および重点項目について説明がされていますので、お目通しください。



熱意あふれる語りに耳を傾けます
(吉川副知事)

このコーナーは、きらりと輝く人生を送る委員を紹介するコーナーです。
お仲間の委員をぜひご紹介ください。



きらり☆この人

武藏野市民児協代表会長
小美濃 純彌さん

武藏野市には、150年伝わる市指定の無形民俗文化財「むさしのばやし」があります。このお囃子の保存会に長く関わられ、「音楽は、自分の人生になくてはならないもの」とおっしゃる小美濃さんをご紹介します。

（紹介者 小林委員）

武藏野市には、150年伝わる市指定の無形民俗文化財「むさしのばやし」があります。このお囃子の保存会に長く関わられ、「音楽は、自分の人生になくてはならないもの」とおっしゃる小美濃さんをご紹介します。

むさしのばやし保存会では、主に篠笛という横笛を担当します。毎年の祭礼や市内のイベントで披露するほか、小学生から大人まで幅広い世代に太鼓や笛を教えています。保存会に関わって35年。おかげで地域の仲間が増え、民生児童委員として活動するきっかけになりました。

活動していて一番うれしい瞬間は、「相談された方の笑顔を見ることができた。民児協の仲間や若い人たちにも、いろいろな活動をして、人と出会い、さまざまな経験を積んでもらえたらしいね」と語る、純彌さんの柔らかな笑顔がとても印象的でした。

わが人生は音楽とともに

お話を伺ったご自宅の一室には、ご自身が撮影された、山あいを走る鉄道の写真が飾られています。自らを多趣味だと語る純彌さん。特に、フルートやサックスなどの楽器の演奏が得意だそうですが、「人にはあまり言わないんだ。恥ずかしくて」と、はにかみながら話されます。

むさしのばやし保存会では、主に篠笛という横笛を担当します。毎年の祭礼や市内のイベントで披露するほか、小学生から大人まで幅広い世代に太鼓や笛を教えています。保存会に関わって35年。おかげで地域の仲間が増え、民生児童委員として活動するきっかけになりました。

東社協コーナー

避難者の東京での生活を支える相談支援

東日本大震災により、8千人を超す方が都内に避難しています。（親族・知人宅約2千4百人、都営・民間借上げ・病院を含む住宅等約6千人※）。震災から10カ月が経ち、避難生活が長びく中で、慣れない地域での生活を継続的に支えることが必要になっています。

このようなかで、東京都社会福祉協議会では、都内に避難している方々のための「福祉総合電話相談」を7月15日から開設しています。

11月末日までの相談件数は268件となっています。相談内容の内訳は、被災者支援情報65件、福祉44件、住居39件、保健医療20件、就労15件、教育4件、法律2件、その他79件です。相談の約半数は福島県から避難している方からです。「被災者支援」では、日常生活用品の不足に関する問合わせ、「福祉」では、都内に避難している親の介護や障害者サービスの情報に関する相談が多く寄せられています。

ます。また、「保健医療」では、心のケアに対する相談が多くなっています。

電話相談を開設した当初

は、義援金・見舞金に関するものや住居等をどう確保するかという相談が多く寄せられました。しかし、震災から10カ月が経過した現在では、先の見通しが立たないこ

とによる様々な不安等の個別的な相談や、避難している方々を受け入れている家族や親族からの支援制度に対する相談などが寄せられています。

電話相談では、これからも避難している方々が、安心して相談を受け止め、適切な機関や窓口の紹介などを通じて支援してまいります。

避難者を地域で支えている機関や窓口の紹介などを通じて支援してまいります。避難者を地域で支えている民生・児童委員をはじめとする関係者からのご相談もお受けしていますので、どうぞご利用ください。

連絡先

福祉総合電話相談
TEL: 03-3268-7177
月～金 9時～17時

※ 11月17日時点、東日本大震災復興対策本部資料より

～新年会に参加しました～

新年を迎え、民生児童委員や地域のお仲間、関係機関の方々と新たな誓い・抱負を述べ合う新年会等が催されます。

お酒が振る舞われる場合もあり、活動記録への記入に迷うことがあるかと思います。こういった会に参加した場合、どんな立場で参加したかが記入のポイントとなります。

今回は、記入しない例も含め、具体的に確認していきましょう。



民児協で行われる新年会について

◆民児協の行事として行われる場合

→ その他の活動件数「民児協運営・研修（4）」に記入します。

※一部の民生児童委員同士で行われる私的な打ち上げ等の会は、記入しません。

町会が主催の新年会について

◆民生児童委員として招待された場合

◆民生児童委員として町会の役員に任命（充て職）され、新年会に参加した場合

→ その他の活動件数「行事・事業・会議への参加・協力（2）」に記入します。

※同じ町会の役員でも、一住民の立場として参加した場合は、記入しません。

他機関・他団体と民児協が共催して新年会を行う場合は、

その他の活動件数「地域福祉活動・自主活動（3）」に記入します。



※なお、忘年会や交流・懇親会なども同様の考え方です。

編集後記

編集委員になって半年が過ぎたある日、表紙写真の題材にと、近くの神社へ長い歴史のある獅子舞の撮影に出掛けました。

そこで見たのは、華やかな舞の陰で多くの人たちが関わり合い、助け合って700年間廃れることなく続けてきた伝統行事でした。ここにも縊によるつながりがありました。私も仲間に助けられ、無事撮影できました。

牧田 勝夫

編集委員

桜井 慧雄（港 区）
大島志づ江（北 区）
古賀 昭弘（世田谷区）
牧田 勝夫（中野 区）
細川 幸子（墨田 区）
青山 豊子（町田 市）
小林 邑子（武藏野市）
酒井 治子（東村山市）
田所 佳洋（立川 市）

編集協力

市東 和子（都民連副会長：広報担当）

カンタン！ あまかせレシピ

かぼちゃの塩炒め



✿かぼちゃを食べやすい大きさに切れます。

✿フライパンにオリーブオイルをひき、塩をひとつまみ入れます。

✿オリーブオイルと塩がなじんだところで、かぼちゃを入れ、炒めます。

✿かぼちゃに火が通ったら盛り付け、お好みで黒胡椒をふって完成です。

炒める前にオリーブオイルに塩を入れることで味がなじみやすくなります♪

発行

東京都民生児童委員連合会
〒162-0823
新宿区神楽河岸1-1
セントラルプラザ4階

TEL: 03(3235)1163
FAX: 03(3235)1169
E-mail: tominren@u01.gate01.com
年4回発行
印刷: 株式会社サンワ